

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 愛媛県
都道府県 愛媛県
対象地域 愛媛県久万高原町
対象品目 トマト



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

久万高原町では夏秋トマトの雨よけ栽培が約14ha行われている。5月上～下旬にかけて定植し、収穫期間が6月下旬～11月下旬と長期にわたることから、アザミウマやコナジラミをはじめとする害虫の発生が多く、防除作業の労働負担が大きい。

これらの現状を踏まえ、光反射シートや粘着シート、気門封鎖剤、天敵を活用した技術の検証を行い、栽培マニュアルの策定ができたことから、マニュアルをもとに栽培技術の普及を図り、化学合成農薬の削減に努める

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名		定植	株の管理・収穫											トマト部会栽培指針
技術名			化学合成農薬	化学合成農薬	化学合成農薬	化学合成農薬	化学合成農薬							トマト部会栽培指針



グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
主な作業名		定植	株の管理・収穫											詳細は「トマトのグリーンな栽培体系」マニュアル参照
技術名	光反射シート設置	粘着シートの設置		天敵の放	気門封鎖剤の散布	気門封鎖剤の散布								詳細は「トマトのグリーンな栽培体系」マニュアル参照

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	14	▶ 14	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.014	▶ 1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.014	▶ 1	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.014	▶ 1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学合成農薬の散布	▶ 光反射シートや粘着シートの利用	化学合成農薬の削減 病害虫被害の軽減 農薬散布回数の削減
環境 省力	化学合成農薬の散布	▶ 天敵（タバコスカシカメ）の利用 気門封鎖剤の利用	化学合成農薬の削減 病害虫被害の軽減 農薬散布回数の削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	農薬散布回数の削減	9	▶ 5	アザミウマ類、コナジラミ類への防除

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・普及指導員やJA営農指導員が中心となって、栽培講習会や個別巡回指導等の際に、栽培マニュアルを元に光反射シート、粘着シート、気門封鎖剤、天敵利用の推進を行う。
- ・技術導入農業者からの技術評価や栽培データを収集し、そのデータを活用してさらなる技術普及に努める。

関係者の役割

関係者名	甲予地万局地域農業育成至久 万高原農業指導班	JA松山市	農業者	
役割	栽培指導 検証圃場の管理・調査 栽培、産地データの収集	農業者との調整 栽培指導 技術の広報 資材の手配	栽培、産地データの提供 栽培技術検証と検討	

その他